合コンにおける身体動作の同調傾向と好意の関係¹○小森政嗣¹(¹大阪電気通信大学 情報通信工学部)

キーワード: 同調傾向, 身体動作, 合コン

Body Movement Synchrony in Matchmaking Party

Masashi Komori¹(¹ Faculty of Information and Communication Engineering, Osaka Electro-Communication University)

Key words: Synchrony, Body Movement, Matchmaking Party.

目 的

コミュニケーション場面では相互作用者同士の身体動作の同期がしばしば観察され、この同期の程度は両者の関係性を強く反映することが知られている(Nagaoka et al., 2007). 本稿ではこのような身体動作間の同期を同調傾向と呼ぶ。本研究では、身体動作の同調傾向が異性に対する好意や関心を反映するのかを、合コン場面とりあげ検討する。

方 法

実験参加者は 21-23 歳の男子大学生 4 名(M1-M4), 21-22 歳の女子大学生 4 名(F1-F4)であった。同性同士は互いに知人であったが、異性間では幹事(M1, F2)以外は初対面であった。

実験は居酒屋の個室を使用した。身体動作の計測には 3 軸加速度センサ (任天堂: Wii リモコン RVL-003)および自作アプリケーションを用いた。8 台の Wii リモコンから得られる加速度データは、Bluetooth を介して PC により記録された (10Hz)。予め、各軸の計測値が無重力時に 0、重力加速度は 1 となるようにキャリブレーションを行った。各 Wii リモコンは実験参加者の背中にゴムバンドにより装着され、トイレに行く際は外すよう指示した。計測中、参加者は座席を換えることはなかった。

合コンは最初の乾杯を計測開始の合図として 90 分間行った(図 1)。合コン開始直前の顔合わせ(会話は禁じた)の段階(第 1 印象)および終了直後(合コン後印象)に質問紙調査を行い異性の参加者に対する 4 項目(短期的/長期的な、友人/性的パートナーとして考えられるかどうか)の評価を 7 段階で行わせた。

結 果

合コンが行われた区間の加速度データ実効値の 3 軸合成値に移動平均フィルタ(1s)を適用し、その対数を身体動作の大きさの指標とした。ただし、実験参加者がトイレに行っている区間は 3 軸合成値を 1 とした。この身体動作の時系列変化をもとに、各実験参加者間の同調傾向の程度を検討する。多人数によるインタラクション場面では、2 者の動作が同調傾向を示したとしても、それは別の第三者の動作を媒介した結果生じた可能性がある。そこで、2 者の同調傾向の程度を、その 2 者以外の者の動作を制御変数とする偏相関分析により求めた。実験参加者を節点とし有意な正の相関($p<.05$)を示した組み合わせを辺とする無向グラフを図 2 に示す。図 2 から座席が近い者同士が同調傾向を示しやすいことが分かる。

異性に対する好意と同調傾向の関係を検討するため、各参加者の各異性参加者に対する評定値と、当該ペアの身体動作の偏相関係数との順位相関係数(Spearman)を求めた。各参加者による評定値は、参加者ごとに標準化して解析に用いた。その結果、同調傾向の程度と短期的な性的パートナーとしての評価(第 1 印象)に有意な正の相関($r_s=.37, p<.05$)が、合コン

図 1 実験開始時の状況(実験参加者は背中に Wii リモコンを背負っている)

図 2 座席配置および同調傾向が認められた組み合わせ

後における短期的性的パートナーとしての評価との相関に有意傾向が認められた($r_s=.31, p=.08$)。他の評価と同調傾向との明確な関係は認められなかった。また、参加者の性別ごとに解析した結果、女性では短期的・長期的な性的パートナーとして高く評価する男性とより強く同調傾向を示していたが(短期: $r_s=.59, p<.05$; 長期: $r_s=.64, p<.01$)、男性ではそのような関係は認められなかった(短期: $r_s=.30, p=.26$; 長期: $r_s=-.08, p=.78$)。

考 察

女性は短期的、長期的な性的パートナーとして高く評価している異性との間で身体動作を同期させていた。一方、男性参加者ではそのような関係は認められなかった。男性の非言語行動を模倣する女性の魅力は高く評価されることが報告されており(e.g., Gueguen, 2009), 本研究の結果と合わせると、身体動作の同調傾向は女性が男性に対して好意・関心を表出するための方略として用いられている可能性が示唆される。

引用文献

- Nagaoka, C., Komori, M., & Yoshikawa, S., (2007). Embodied synchrony in conversation. In Nishida, T. (Ed.), *Engineering approaches to conversational informatics*, John Wiley & Sons. pp.331-351.
Gueguen, N. (2009). Mimicry and seduction: An evaluation in a courtship context. *Social Influence*, 4, 249-255.

¹本研究に多大なご助力いただいた新谷一将氏、福田誉幸氏に深く感謝いたします。本研究の一部は科学研究費補助金(19700251)の補助を受けた。